

平成26年度「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告書

提出:平成 26 年 12 月 17 日

① 企画の名称

イギリスにおけるダンス/ムーブメントセラピーの現状

② 企画代表者の氏名・所属(学年)・連絡先

氏名	飯田あや
所属・学年	人間行動科学専攻スポーツ科学コース 一年
連絡先	

③ 企画者の氏名・所属(学年)(代表者以外の協力者)

氏名	所属(学年)
梅本麻美	人間行動科学専攻 スポーツ科学コース(1回生)
田中千尋	人間行動科学専攻 スポーツ科学コース(1回生)

④ 支援教員

氏名	所属
成瀬九美	生活環境学部 心身健康学科

⑤ 企画における講師(講演者)

氏名	所属(連絡先)
小西 江莉	ADMPUK (イギリス・ダンス・ムーブメント・サイコセラピー協会)

⑥ 企画実施日・会場及び参加者

日時	12/17(水)
会場	N202 講義室
参加人数	17名 (講演者・企画者・協力者含む)
参加者の内訳	本学教職員 1 名 / 本学大学院生 2 名 他大学教職員 名 企業・団体職員 名 / その他 14名

⑦ 企画についての概要報告

企画の形式	講義
企画の概要	
<p>申請者(飯田)は、空想、想像力におけるクリエイティビティの可能性とそこから生まれる身体表現について研究している。現在、大学生を対象に質問紙によって空想の傾向と身体イメージについて分析し、身体の輪郭やイメージを含む新たな想像力についての質問紙の作成を試みている。その中でダンスセラピーの代表的な文献である「The Art and Science of Dance/Movement Therapy Life is Dance」を読み進めているが、この文献への知見を深く広げるとともにイギリスにおける現状について知識を得ることによって、今後どのような分析方法が妥当であるのか検討したいと考えている。</p> <p>今回のセミナーでは、イギリスでダンス/ムーブメント・サイコセラピストの資格をイギリスで取得し、活動されている小西 江莉氏(現在は桜井市在住)を迎えて、イギリスのDMTの臨床で記録と診断のために用いられる「Labanの運動分析(LMA)」を現場での活用法を中心に解説していただくことによって、自分自身の研究への応用を検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー当日のスケジュールとして、プロジェクターを用いた講義をしていただく。 ・他領域の学生にも広報したいと考えている。 	

⑧ 企画の成果報告

企画の成果(企画の目的の達成度に関する自己評価・その他企画の実施により得られた知見など)
<p>ダンスセラピストの資格習得のためのカリキュラムやそのために必要な学問領域、また芸術療法としてのイギリス社会での認知度や職業としての必要性など多岐に渡ってイギリスにおけるダンスセラピーの現状を中心に話をさせていただいた。その中で小西さん自身の経験を織り交ぜながら、ほとんど日本人のいない環境で、日本人としてのアイデンティティをどのように持って学んできたか、またその違いの中で得られたものなどを聞くことで、ダンスセラピーがまだまだ浸透していない日本での必要性や問題点などを理解することができた。また、授業で読んでいる文献で出てくる専門用語を身体を用いて説明していただき、体感することによって、自分の身体をもって理解し、新たな発見ができたことはとてもよかったと思う。今回、企画に携わり、自分自身もダンスセラピーについて様々な疑問の追求ができ、直接講師の先生とお会いして講義の内容を考えることによって、参加者の視点や円滑に行うための準備、報告の必要性を改めて学ぶことができ、とても良い機会となった。</p>

⑨ 添付書類(■は必須、その他添付したものについては、□にチェック)

- ポスター、チラシなど事前の広報資料
- 参加者名簿(芳名録のコピーなど。参加者の氏名と所属(ないし居住地の市町村)の一覧でよい。)
- セミナー当日配布資料(ある場合は必須)
- セミナー講演者の映示資料のハードコピー(ある場合は必須)
- セミナーの録音・録画記録のメディア
- 参加者に対して行った意見徴収・アンケートなどの配布資料
- 参加者に対して行ったアンケート調査などの集計結果
- 新聞やミニコミ誌などに広報を行った場合その記事のコピー
- その他()